

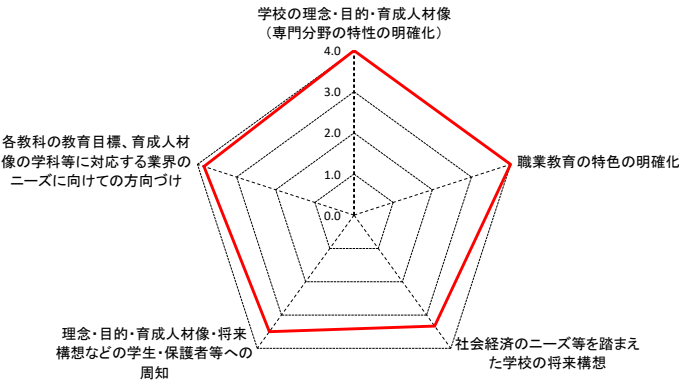
令和元年度 学校関係者評価のまとめ <学校関係者評価委員による評価と意見(改善策)>

くしろせんもん学校

4…適切、3…ほぼ適切、2…やや不適切、1…不適切

1 教育理念・目標

	4	3	2	1	平均	昨年度
学校の理念・目的・育成人材像(専門分野の特性の明確化)	6	0	0	0	4.0	4.0
職業教育の特色の明確化	6	0	0	0	4.0	4.0
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想	2	4	0	0	3.3	3.4
理念・目的・育成人材像・将来構想などの学生・保護者等への周知	3	3	0	0	3.5	3.2
各教科の教育目標、育成人材像の学科等に対応する業界のニーズに向けての方向づけ	5	1	0	0	3.8	4.0

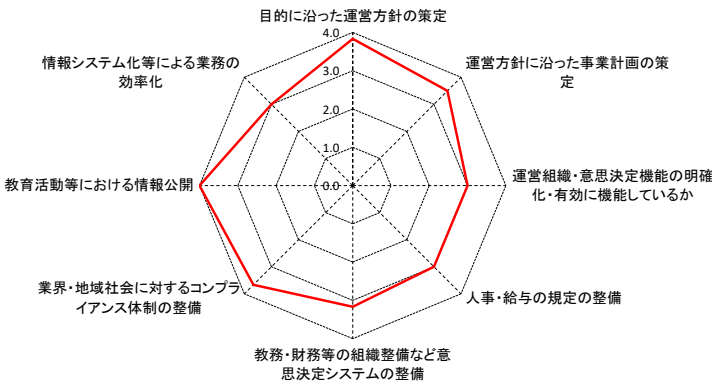


・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 一人一人の学生に丁寧に向き合い、個々の可能性を最大限に引き出すために考え得る最善の支援を尽くすという事は、小規模校だからこそ十分にできることだと思います。「この学校でよかった」と思い卒業した学生が学校の理念を広めてくれるのだと思います。
- 保護者との意思疎通にご苦労されているなかでも種々工夫しておられることを評価したいと思います。
新聞報道にもあった「台湾の明道大学との協定」については、初見においては興味深く、くしろせんもん学校の新たな可能性を見いだせるアクションとして認識しておりましたが、教職員への説明等に不足があったことには残念な気持ちであります。この種の課題には全校あげての協力体制が必須だと思いますので、今後の動向を注視させていただきたいと思います。
- 学校の理念・目的・育成人材像を示すことや職業教育の特色の明確化などを進め、外部への発信も工夫するなど積極的な取り組み姿勢を感じます。
一方で現実の諸問題との乖離による形骸化を指摘されており、今後はそれらを結び付けた中での課題解決に取り組んでいただきたい。
また、外部への発信も引き続き工夫を重ねていただき、学校関係者のみならず地域住民にも浸透するよう取り組みを進めていただきたい。

2 学校運営

	4	3	2	1	平均	昨年度
目的に沿った運営方針の策定	5	1	0	0	3.8	4.0
運営方針に沿った事業計画の策定	3	3	0	0	3.5	4.0
運営組織・意思決定機能の明確化・有効に機能しているか	1	4	1	0	3.0	3.2
人事・給与の規定の整備	1	4	1	0	3.0	3.2
教務・財務等の組織整備など意思決定システムの整備	2	3	1	0	3.2	3.2
業界・地域社会に対するコンプライアンス体制の整備	4	2	0	0	3.7	3.8
教育活動等における情報公開	6	0	0	0	4.0	4.0
情報システム化等による業務の効率化	1	4	1	0	3.0	3.0



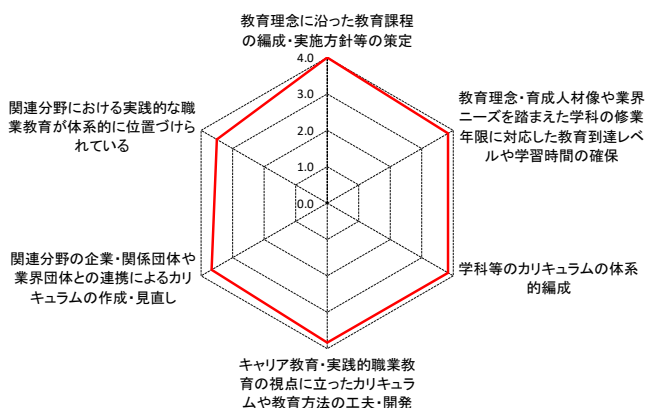
・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 「ティール運営」という言葉を初めて聞き、会議においても説明を受けたのですが、良く理解できていません。教職員の中でも十分な理解のもと、進めておられるとは言え、今後の共通認識の醸成を期待します。
「ティール運営」は教育現場への導入例が乏しいと聞いております。他分野での成功体験をもとに導入されてきたのでしょうか、それを教育現場で生かすための具体的な方法についても、今後のレクチャーにて明らかにしながらお進めいただきたいものです。
- 理念・目的→方針→計画 と具体的な内容に近づけば近づくほど様々な問題点が出てくるものと思われます。
財務面での問題もあると思いますが、ひとつずつこの具体的問題点をつぶすことが理念・目的に近づくことになりそうですので進めていただきたい。

3 教育活動

(1) 教育課程

	4	3	2	1	平均	昨年度
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等の策定	6	0	0	0	4.0	3.8
教育理念・育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保	5	1	0	0	3.8	3.4
学科等のカリキュラムの体系的編成	5	1	0	0	3.8	3.8
キャリア教育・実践的職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発	5	1	0	0	3.8	3.8
関連分野の企業・関係団体や業界団体との連携によるカリキュラムの作成・見直し	4	2	0	0	3.7	3.6
関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられている	3	3	0	0	3.5	3.8



・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

●資格に必要な科目に加えて、くしろせんもん学校の特色ある科目が充実している。限られた年限ではありますが、今日の学生の実態を踏まえつつ、より特色ある教育課程の編成を望みます。

●本校の教育課程については、毎回、限られた時間内において凝縮したカリキュラムを構築しているそのご努力に敬服させていただいております。取得できる資格も多岐にわたり、またそれぞれの関連性も考慮されており、学生のレベルアップにつながっているものと認識しています。インターンシップ等による校外の各種現場との連携については、今後も質・量共に追求し続けていただきたいと思います。

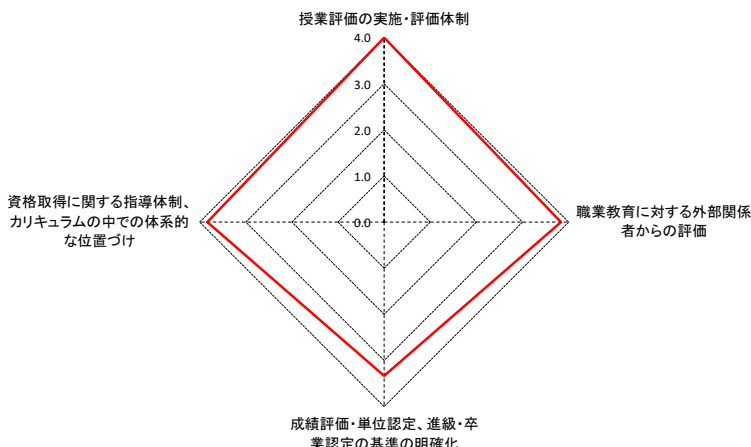
●教育課程の策定やカリキュラムの編成など大変苦心されていることと思いますが、学生がその時々々の社会ニーズにこたえた専門職士となれるよう、今後も進めていただきたいと思います。

実習の報告会のご案内をいただき生徒の学びの一端を見せていただきましたが、そこからも実習までの学習指導と実習を含めた体系的な学習をされていることが見て取れました。

実践的な学習の場である実習は学生が大きく成長できる場面でもありますので先生方のご苦労や制約はあると思いますが今後も積極的にお取り組みいただきたいと思います。

(2) 指導・評価

	4	3	2	1	平均	昨年度
授業評価の実施・評価体制	6	0	0	0	4.0	4.0
職業教育に対する外部関係者からの評価	5	1	0	0	3.8	3.6
成績評価・単位認定・進級・卒業認定の基準の明確化	2	4	0	0	3.3	3.6
資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけ	5	1	0	0	3.8	3.8



・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

●成績評価について、基準を明確化しつつ、適宜合理的な配慮が実施されるようお願いいたします。

●学生による授業評価が定着されていることには敬意を表したいと思います。そのことにより、教職員の普段からの緊張感が醸成されることでしょ。加えて、教職員のみなさんが過度にその評価を意識することにより、言動につき萎縮されることなく、のびのびと活動されることを切に願っています。

非常勤講師に対する授業評価も実現されるとよろしいかと思います。

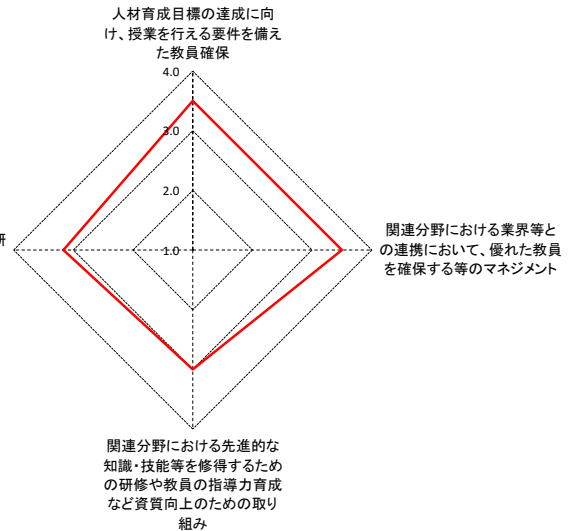
●授業評価や外部評価については体制作りを行ってきた結果、整ってきていると思われます。

学生個々の成績評価や進学卒業の判定についてまだ整理できていない部分があると現場で感じていることは公平な評価が制度として確立していないことにもつながっていると思いますので今後検討し、学生を含めて周知していただきたいと思います。

(3)教員・研修

	4	3	2	1	平均	昨年度
人材育成目標の達成に向け、授業を行える要件を備えた教員確保	3	3	0	0	3.5	3.8
関連分野における業界等との連携において、優れた教員を確保する等のマネジメント	3	3	0	0	3.5	3.8
関連分野における先進的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組み	1	4	1	0	3.0	3.4
職員の能力開発のための研修等の実施	1	5	0	0	3.2	3.2

職員の能力開発のための研修等の実施



・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

●教員が少なく、先生方の業務多忙が心配です。研修を充実させるにも人的な体制作りが必要かと思われます。財政的な面もありますが、先生方の専門性を更に深めるためにも、学びやすい環境づくりを整えていただけたらと思います。

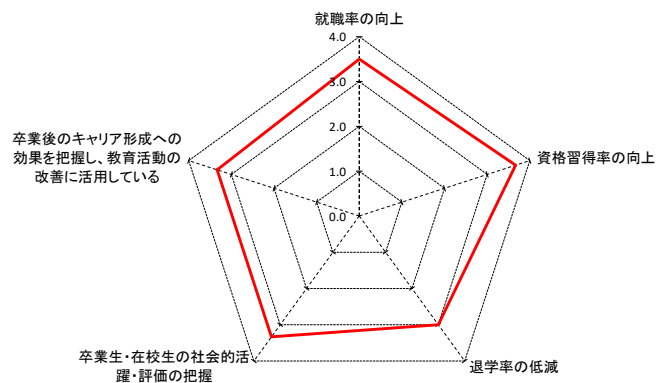
●以前実施されていた、市内の大学、短大、高専、専門学校の連携、情報交流会のようなものがあるといいですね。

●教職員の研修・研鑽は非常に大切な事業と認識します。日々のOJTはもとより、off-JT・SDSの重要性も鑑み、体系的な総合的研修体制の整備を進めていただきたいと思います。
全教職員対象の外部講師研修は、大変有用なことと思います。今後のご多忙中에서도時間を調整して継続されることを望みます。

●業務多忙の中での研修はご苦労が多いことと思いますが、そのような中でも研修受講意欲を高く持っていただいていることは、その果実として生徒にとっても魅力ある学びの機会の提供につながっていることと思います。
学校運営の中でそうした教職員の研修受講意欲を支援するため、人的体制の整備と研修果実を活用できる環境づくりを進めていただきたいと思います。

4 学修成果

	4	3	2	1	平均	昨年度
就職率の向上	3	3	0	0	3.5	3.8
資格習得率の向上	4	2	0	0	3.7	4.0
退学率の低減	1	4	1	0	3.0	3.2
卒業生・在校生の社会的活躍・評価の把握	2	4	0	0	3.3	3.4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し、教育活動の改善に活用している	2	4	0	0	3.3	3.2



・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

●様々な課題を抱え入学した学生が資格を取得し、働く中でどの様に成長しているのか、卒業生の生の声がたくさん伝わる機会や場があると良いと思います。

●職能団体などと協力しながら卒業生のフォローアップをお願いします。

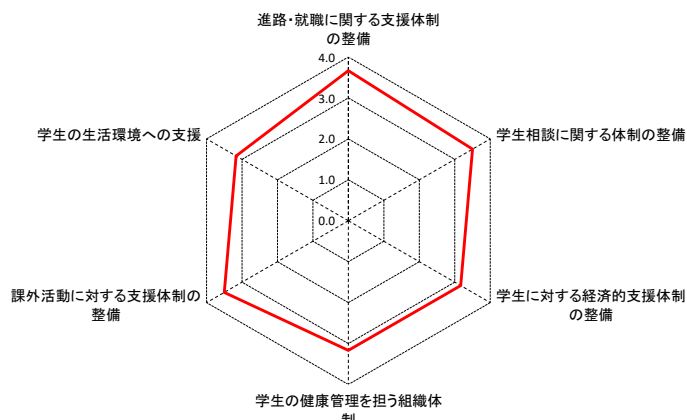
●来年度の創立50周年を大きな契機としてジャンプアップして行っていきたいと考えます。絶好の社会的アピールのタイミングとなるでしょう。この機会に同窓生の緩やかな組織化を進め、現役学生・教職員への強力な支援を得る努力を進めて欲しいと思います。

●就職率や資格取得率が前年より低下していることは、学生・保護者が専門学校に求めるニーズが達成できていないことでもあると思います。一朝一夕には改善できる問題ではないと思いますが、日頃からの積み重ねを大切にいただき改善に向けたお取り組みをお願いします。
卒業生と学校・在校生を結び付けていくことは、双方にメリットがあると思いますので今後もアプローチをしていただけるようお取り組みをお願いします。

5 学生支援

(1) 支援体制

	4	3	2	1	平均	昨年度
進路・就職に関する支援体制の整備	4	2	0	0	3.7	3.8
学生相談に関する体制の整備	3	3	0	0	3.5	3.6
学生に対する経済的支援体制の整備	1	5	0	0	3.2	3.4
学生の健康管理を担う組織体制	1	5	0	0	3.2	3.4
課外活動に対する支援体制の整備	3	3	0	0	3.5	3.6
学生の生活環境への支援	1	5	0	0	3.2	3.4



・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

●学生と先生との信頼関係が築かれており、個々に合わせた対応が取られていると感じています。教育が少ない中で先生方が献身的にご努力されていることに敬服致します。

●財政的な負荷がかかりますが、教員外の相談員（非常勤、カウンセリングとソーシャルワークを併せ持つ）等の配置もご検討ください。（必要に応じて保護者との面談も行う）

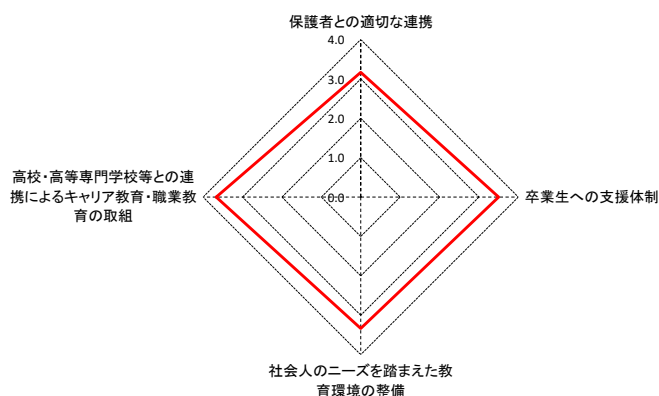
●卒業後の進路に関しては精一杯のご努力をなされているものと認識しています。なかなか結果が見えてこない部分は、昨今の福祉・介護を巡る諸情勢によるものも多く、大変残念な状況と言わざるを得ませんが、その点は校内外の英知を結集して、地域の課題としてとらえて幅広くアピールしていきたいものです。

学生に対する様々な支援においては教職員のみなさんのご努力に敬服しております。

●現在の学生の事情を考えると支援する側の負担が大きくなってきており、支援体制の整備を早急に進めなければ教員側の負担は今後も増え続けるものと思います。学生が安心して学べる支援体制を作ることとは学生・保護者の満足度も上がり結果学校の評価も高まることにつながります。引き続き現在の課題にお取り組みいただきたいと思います。

(2) 連携体制

	4	3	2	1	平均	昨年度
保護者との適切な連携	1	5	0	0	3.2	3.2
卒業生への支援体制	3	3	0	0	3.5	3.2
社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備	2	4	0	0	3.3	3.6
高校・高等専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組	4	2	0	0	3.7	3.6



・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

●社会人が学ぶ環境については、非常にご努力されていると思います。高校卒業から進学する学生にとっては人生の先輩から学べる大変良い機会ともなり、喜ばしいのですが、その学生の乏しさが残念です。

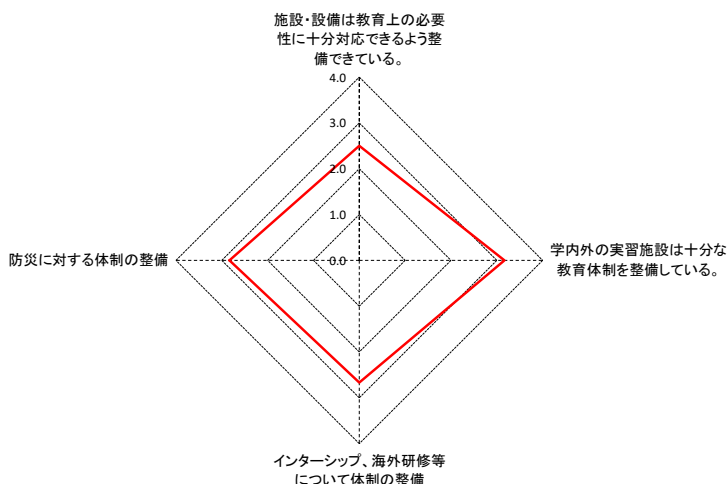
各現場で活躍する卒業生には、現役学生に多くの示唆をいただける機会が増えることを祈念しています。その為にも同窓会の緩やかな組織化が必要と考えます。

●一保護者との連携は、保護者側の意識の問題からご苦労されている様子が見られます。改善に向けた突破口はなかなか見いだせないかと思いますが、今後も丁寧に進めて信頼醸成を図っていただきたいと思います。

卒業生への支援・連携は、新たな学生の紹介や現場で求められている知識技能などの情報把握など多岐にわたって学校にとって大きな財産になるかと思っています。学校組織として取り組みが進むよう検討いただきたいと思っています。

6 教育環境

	4	3	2	1	平均	昨年度
施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備できている。	0	3	3	0	2.5	2.8
学内外の実習施設は十分な教育体制を整備している。	1	5	0	0	3.2	3.6
インターシップ、海外研修等について体制の整備	0	4	2	0	2.7	3.2
防災に対する体制の整備	0	5	1	0	2.8	2.8

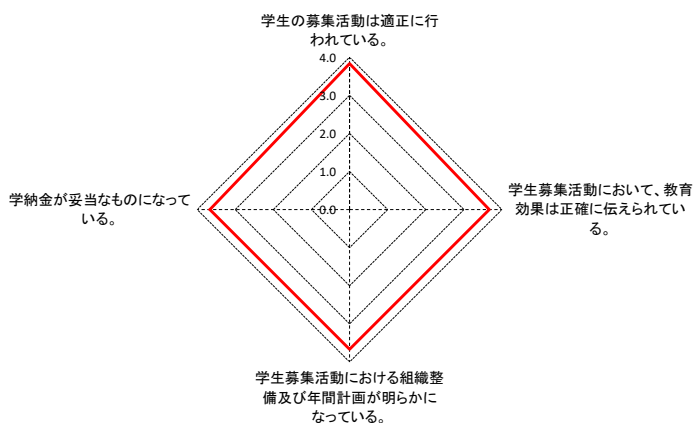


・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 学生が安心して心地良く学ぶために、老朽化し、危険な施設設備の修繕を計画的に実施していただきたいと思います。
- 幼稚園、保育園、児童福祉施設等で一生懸命頑張っている実習生の姿を目にしています。
- ハード的な整備については限られた財源を考慮に入れなければならない困難さがあると思いますが、少ない費用でも知恵やアイデアを働かせ、小さなところからでも改善して行く意識を忘れないでいただきたいと思います。
環境はそれを受け入れると同時に、能動的にそれを変えていく気概もあれば、これまでと違って見えて来ることもあり、そのちょっとした変化に活路を見出すことも目指したいものです。
- ハード面の問題は、財政的な課題を解決しなければ難しいと思いますが、学生や保護者が学校の魅力としてとらえる大きな要素でもあり、安全面からも着実に解決に向けた取り組みをしていただきたいと思います。
防災施設の不備や老朽化は、非常時に大きな問題になるケースが多いので早急に改善をお願いします。

7 学生の受け入れ募集

	4	3	2	1	平均	昨年度
学生の募集活動は適正に行われている。	5	1	0	0	3.8	3.8
学生募集活動において、教育効果は正確に伝えられている。	4	2	0	0	3.7	4.0
学生募集活動における組織整備及び年間計画が明らかになっている。	4	2	0	0	3.7	3.8
学納金が妥当なものになっている。	4	2	0	0	3.7	4.0

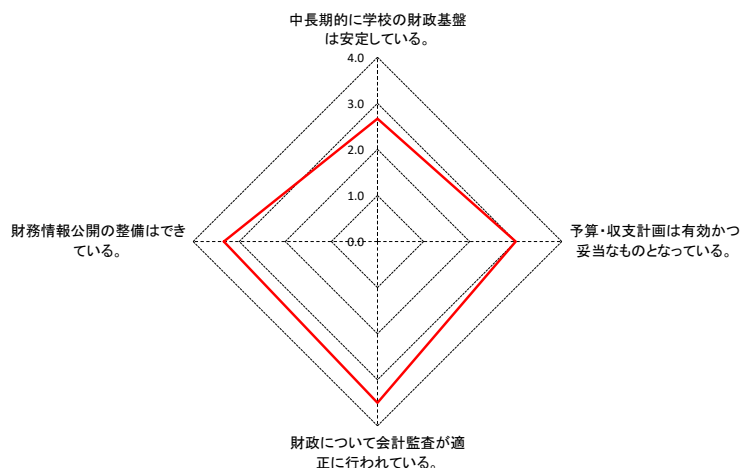


・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 目をひくパンフレットやジョブカフェの活用など、学校側の取り組みは高く評価できます。人口減少地域の釧路をどう活性化していくのか、地域と連携し、その課題に向かわなければならない状況にあるのだと感じます。
- 高等学校へのアピールが大変重要ですが、出来る限りのご努力をされていると感じます。回数多いオープンキャンパスも少ない参加者とはいえ、それだけに伝わるものがあつたのではないのでしょうか。
今後はより若者が使用する方向媒体への積極的なアピールを強化していただきたいと思います。
- 現在も様々な工夫をしながら情報発信・募集活動をされていると思います。今後もオープンキャンパスなどの募集活動の効果の検証をしながら、より良い活動につなげていただきたいと思います。
一方で募集活動を工夫しても学生数増は別問題で他評価項目で表出した問題点改善点に丁寧に対応していくことが大切だと思います。

8 財務

	4	3	2	1	平均	昨年度
中長期的に学校の財政基盤は安定している。	0	4	2	0	2.7	3.0
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっている。	0	6	0	0	3.0	3.2
財政について会計監査が適正に行われている。	3	3	0	0	3.5	3.8
財務情報公開の整備はできている。	2	4	0	0	3.3	3.6

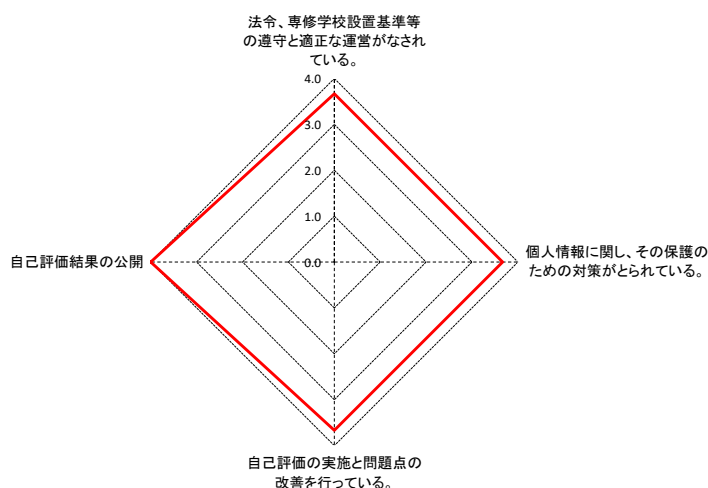


・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 学生数が減少し、厳しい財政の中で職員の皆様のご努力されていることに敬意を表します。
- 何より学生数の確保に尽きますので、あらゆる方途を駆使して努力することが重要です。これまで実施してきた方法もそれぞれ見直し、少しでも突破口が見つければ、それを教職員間で共有し、強化できれば希望となるでしょう。また授業料以外の財源対策に尽力し、各市補助・助成事業への挑戦を行っていただきたいと思います。
- 財務状況については、勤務されている職員の皆様の関心も高い部分だと思います。現状把握や先の見通しについてコミュニケーションいただき、安心して学生に向き合える環境づくりをお願いします。

9 法令の遵守

	4	3	2	1	平均	昨年度
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされている。	4	2	0	0	3.7	4.0
個人情報に関し、その保護のための対策がとられている。	4	2	0	0	3.7	4.0
自己評価の実施と問題点の改善を行っている。	4	2	0	0	3.7	4.0
自己評価結果の公開	6	0	0	0	4.0	4.0

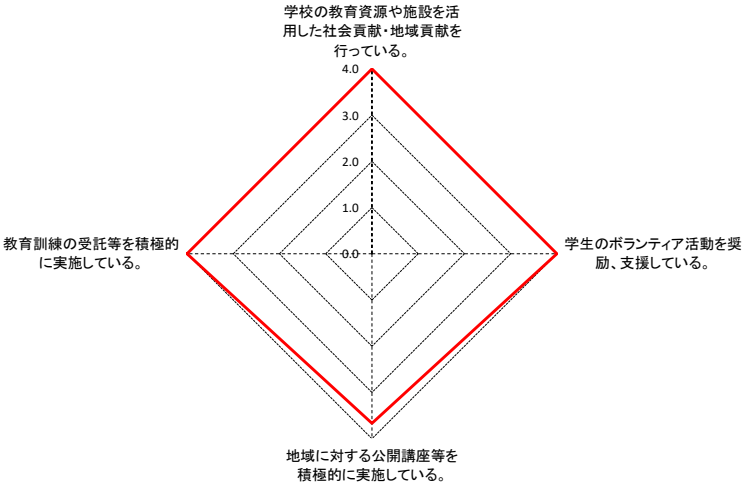


・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 学校の自己評価から、先生方が真摯に現状を分析し、改善していきたいという願いが伝わりました。今後の更なる発展を期待します。
- 専門学校に特有のコンプライアンスと同時に、一般的なもの、基本的なものの検証も含め進めていただきたいと思います。時には、外部の法律関係者による評価を行うことが可能であれば、その意見を受け止めることも必要ではないでしょうか。
- 今年度の学校自己評価から前年度より厳しい評価となっているが学校職員のさらに改善に向けた意識の向上が表れたものと思います。今後も一層の向上の為に、出た課題を解決していく体制づくりを進めていただきたいと思います。

10 社会貢献・地域貢献

	4	3	2	1	平均	昨年度
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている。	6	0	0	0	4.0	4.0
学生のボランティア活動を奨励、支援している。	6	0	0	0	4.0	4.0
地域に対する公開講座等を積極的に実施している。	4	2	0	0	3.7	4.0
教育訓練の受託等を積極的に実施している。	6	0	0	0	4.0	4.0



・評価によって表出した課題及び考えられる改善策

- 地域への施設開放、地域の要求に応える実践など、地域に開かれた学校であると大いに評価します。今後も地域と共に歩む学校運営を進めていただきたいと思います。
- 本校の活動には常々敬服しているところです。年間通して大変多忙な中、良く実践されていると思います。今後も取捨選択されながらも継続されることを望みます。
- 学校自己評価では前年より下がっているものの、全体として良い評価となっていることは日頃からの取り組みの成果だと思います。今後も継続した取り組みをしていただきたいと思います。
地域との結びつき・連携は、難しい課題ではありますが地域のニーズを探りながら学校として取り組めることを少しずつ進めていただきたいと思います。

●その他の課題

- この地域で重要な役割を担う教育、福祉の人材養成とともに、多様な青年たちの学びの場としても、くしろせんもん学校への期待は大きいです。様々な困難な状況もありますが、引き続きよろしくお願いいたします。
- 2025年問題、2040年問題へ向けての、あるべき”地域共生社会の実現”における福祉・介護人材の養成と確保につき、本校内での議論に留まらない課題提起を世に問う事が必須だと考えます。
- 広報(学生募集を含めた)や情報公開を積極的に様々な工夫されて進められていることと思いますが、現状ではインターネットを活用した手段の割合が高くなっているように感じますが、情報があふれているインターネットの中では紙媒体など様々な方法をミックスしたほうが情報の伝達は進むのではないのでしょうか。(もちろんコストの問題はありますが) SNSやホームページに誘う手段としても有効だと思います。
近隣地域には、くしろせんもん学校の活動が見えてきていないのでご検討ください。

○考えられる改善策

- 行政、社協、施設等、釧路地域において広域的な連携による協議会・研究会などを組織化し、全国・全道のアクションと連動した、地域からのアピールを高めていくこと。そのためには創立50周年という正にタイムリーな時を迎えますので、そのチャンスをしっかりと生かす事業を起こすことが肝要だと思います。
福祉・介護の人材不足は、その地域全体の課題であるので、地域づくりの最前線である、行政(福祉・教育・労働関連等)に協力を働きかけ、“場”を創出していただくことを模索できないだろうか、と考えます。
- 課題解決の最大のネックは財務面だと感じますが、どのような企業・団体でも限られた財源の中で工夫しながら最大の効果を出せるよう努力しているものと思います。またお金をかけるべきところと工夫で補うところ(我慢するべきところ)の考え方は、組織内の立場が違えば変わってしまいます。
そのギャップを埋めるためには、さらなる組織内コミュニケーションが大切だと思います。学校職員が同じ認識で学生たちの為に良い学校づくりを今後も進めていただきたいと思います。

学校としての改善策

1. 教育理念・目的・育人人材像

●小規模校だからできる学生や保護者とのきめ細かな関わりの中で、学校の思いや願いの発信に努めていきたいと思います。加えて、地域住民への関わりについても、その可能性を探っていききたいと思います。
●学校の将来像(構想)を見定めるなど「経営に携わる立場」と、その具現化を目指し「直に学生の教育に携わる立場」が一つにして進めていくことの重要性を組織として再確認し、意思疎通を図っていききたいと思います。

2. 学校運営

●令和2年度から「ティール運営」への本格的な取り組みがスタートします。教職員一人一人が各担当事項について責任を持って決定し進めていくことで学校運営を活性化させていくことがねらいですが、現段階では組織的にも未熟であり、目指す姿には至っていません。ご指摘の「共通認識」を課題に据え、模索していく1年にしたいと思います。

3. 教育活動

(1)教育課程
●全体的に高い評価をいただきました。ご指摘いただいた企業・団体等との連携、職業教育の体系化などについて振り返りを持ち、充実させていきたいと思ひます。実習報告会については引き続き委員の皆様へご案内させていただきますので、学生への励ましやアドバイスをお願いいたします。
(2)指導・評価
●評価、単位認定、進級・卒業認定については、学校自己評価においても「今あるものを再検討する必要性」が指摘されています。時間を要することが予想されますが、より良いものとするために取り組んでいきたいと思ひます。学生による授業評価は、さらに多くの非常勤講師の協力がいただきながら継続し、充実した授業づくりに結びつけていくことができればと考えています。
(3)教員・研修
●昨年度から取り組んだ、全教職員を対象とした研修会(テーマ:学生の理解と支援の視点/講師:教育大学)を継続実施することができ、学びが深まりつつあります。非常勤講師の参加者数を増やしなが継続させていきたいと思ひます。
●今年度は、北海道特別支援教育学会根釧支部主催の「青年期の特別支援教育フォーラム」(4回開催)に参加し、小・中・高・大・特別支援学校等の現状の交流(本校の現状も発表しました)から学生との関わり方の多くを学びました。今後も幅広い立場の方々との連携を進めていきたいと思ひます。なお、校外における研修への参加は、業務や経費の面から難しさもありますが、学校として計画的な参加を進めていければと思ひます。
●本校では教員、講師の資質向上に向け、2009年度より研究・実践の成果を「研究紀要」としてまとめ、関係機関に発信していますが、今年度も第7号を発刊することができました。非常勤講師の発表を更に拡大しながら毎年の発刊を目指していききたいと思ひます。

4. 学修成果

●退学、出席率、学びへの意欲などの問題解決への基本は「学生一人一人に寄り添い支援していく姿勢」(一人一人に応じた指導体制)を教職員全員で取り組み確立することです。今後も教職員の共通理解を大切にしながら、意図的・計画的に進めていききたいと思ひます。
●就職を希望する学生の就職率はほぼ100%であり、就職先もほぼ100%が学びに関連した業種になっています。ただし、卒業生の中には短期間のうちに離職するという事例も見られます。卒業後の状況がどうかをおさえることは、現在学んでいる学生との関わりに大きなヒントとなることから、調査を計画的に進めていききたいと思ひます。

5. 学生支援

(1)支援体制
●本校では、小・中・高校の学級担任に当たるTA(ティーチング・アドバイザー)をおき、個人面談、生活相談、教育相談、就職相談などを行っています。学生各々が持つ課題等は一人一人異なっているので、小規模校であることを生かし、個に応じたきめ細かな指導をTAを中心としながらも学科で共有しながら進めていききたいと思ひます。
●今年度、学生個々への関わり(支援)を充実させるために、専門的な知識を持つ外部の方々と連携して進めることができないか検討してきました。その結果、令和2年度から、教職員だけでなく学生(及び保護者)を対象とした面談(相談活動)を釧路市障がい者基幹相談支援センターにご協力いただけることになりました。大いに活用し、学生支援を力強いものにしていききたいと思ひます。
(2)連携体制
●本校で学び、その学びをもとに職業生活を送っている先輩から、働くことの喜び、やりがい、苦労、悩みなどの体験談を聞くことは、様々な面で学生に役立つことです。そのような機会の設定を検討したいと思ひます。
●学生が意欲的に学び、充実した学校生活を送る上で、保護者の役割には大きなものがあります。保護者との連携については、他管内在住の方も多く、難しさもありますが、年1回でもよいから個別面談を実施できないか、検討したいと思ひます。

6. 教育環境

●今年度は釧路市の補助金(執行に必要な本校の負担金も含めて)を設備充実に活用する計画を立て、放送設備設置、PC更新(購入)、実習室床張り替えなどを行いました。令和2年度は、介護環境科の授業を充実させるべく、実際に施設で活用している機能を持ったベッドへの更新(購入)等を進めたいと考えています。財政的な面からの難しさもあり、教育環境の整備を一気に進めることはできませんが、学校の学びを充実させるため、中長期的な展望を持ち進めていききたいと思ひます。
●スクールバスを利用した体験型の授業は、本校の特色ある教育活動の大きな要素になっています。今後も一層の充実を図っていきます。

7. 学生の受け入れ募集

●学校案内、ホームページ、オープンキャンパス、高校訪問など、学生募集、出前・来校講座等には毎年力を注いで取り組んでいます。しかし、2018年問題(高卒生の著しい減少)等により入学生数の低迷が続いています。また、入学生の割合としては、高卒生減、技専生増の傾向が強くなってきており、教室の雰囲気も変化してきました。これまでの取組を粘り強く進めるとともに、ホームページにおける学校紹介コーナーの新設、オンラインによる進学相談会など、新たな取り組みも模索したいと思ひます。

8. 財務

●充足率が50%を切っている状況が続いていることから、財務には厳しい状況にあります。前述の募集活動を充実させるとともに、在校生の学校に対する評価の向上(それが高校の後輩に伝わっていき、募集活動にも関わることから)、中退者減にもしっかりと向き合いながら進めていききたいと思ひます。
●また、限られた予算のなかで最大限の成果を生むように、今後も努力を続けていききたいと思ひます。

9. 法令の遵守

●法令遵守は組織運営の根幹に係わる最も重視されるべき事項です。引き続きしっかりと対応していききたいと思ひます。

10. 社会貢献・地域貢献

●社会貢献・地域貢献は本校のビジョンとして大切にしていることのひとつです。出前・来校講座、地域から要請のボランティア活動、本校自然環境教育センター主催による市民参加型の「釧路自然再発見シリーズ」講演会など、今後も継続して取り組んでいきたいと考えています。
●毎年10月に学生会主催の学校祭を開催し、地域住民の方に楽しいひとときを過ごしていただくとともに学校の良さを地域に向けて発信しており、学生にとって大事な取り組みの一つとなっています。令和2年度は、学校祭のテーマを、法人の「発展計画」に示されている学院・学園の在り方(方針)の中から「誰かに必要とされるって素晴らしい」とし、ねらいが「地域の方々との交流」「学校の認知度を高める」であることも明確化して取り組むことにしました。(しかし、新型コロナウイルス感染防止の観点から、令和2年度の開催は取りやめ、「地域清掃の実施」と「本校をアピールする垂れ幕の設置」に振り替えて行うこととしました)

※令和2年度については、新型コロナウイルス感染防止対策に係り、これまで進めてきた本校の取組が行えない場合や、各団体等の研究会等が開催されず研修の機会がなくなることも予想されます。開校50年に係る催しも翌年度(令和3年4月で開校50年)に持ち越さなければならない状況です。